

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	臼井 陽一郎						

#### ゼミテーマ・タイトル

##### 世界の認識への準備

##### 内容

自分について、世界について、どのように考えていいかいいのか。このゼミでは、特定の知識を自分の脳に保存するための学習ではなく、何をどのように考えればいいのかを考えるためのきっかけ作りを目指し、それを参加者の間で共有していきたい。

ゼミで実施するワークの例：

自己紹介—いま自分に足りないこと・絶対に手に入れたいこと・ひとを幸せにすること

写真を読む—物語を読み取りメッセージを見出す

動画を観て文章を書く—映像の中で何が生じているのかをつかむ

難民問題について—誰の責任か・誰が救済すべきか・日本は何をすべきか

シリア難民の臓器売買—臓器を買う売人と売る難民は悪を為しているのか

エッセイコンテスト—描写の具体性・論理の説得力・主張の訴求力・文の柔らかさ・無条件の魅力

テキストを読む—入門政治学 365 日・戦争に負けないための二〇章・ダウン症をめぐる政治

音楽を聴いて文章を書く—忌野清志郎・ジョンレノン・発達障がいをもつピアニスト

自分の価値観を探る—理想の自分像と理想の人間像を比較する

政治家のスピーチを聴く—トランプ・サンダース・斎藤隆夫・チャップリン

小説を読む—ドストエフスキイ・トーマスマン・大江健三郎・中上健次など。

400 字課題：

400 字びったりで下記のテーマを自由に論じる（主語に一人称は使わない・語尾に思う思った感じる感じたは使わない） 人間について・希望について・絶望について・身体について・精神について・社会について・政治について・世界について・正義について・自由について・公正について・不安について・平等について・理想について・秩序について・歴史について・テロについて・権力について・戦争について・責任について なお、400 字課題含めて、毎回 4 時間相当の予習／復習が必要になる。

##### 使用予定テキスト

適宜授業中に指定する。

##### ゼミの進め方

毎回ゼミ内で課題を出す。A3 版用紙一枚でその課題への応答を表現してもらう。絵を描くのでもかまわない。

##### 成績評価基準

ゼミ内で実施する課題 50%

ゼミ外で実施する課題（400 字課題）50%

##### ゼミ選択上のアドバイス

ゼミの中でぼつんと一人、だれとも喋らず座っているだけでもよいです。頭の中で・心の中で、しっかりと考え方抜いてください。イツメンと一緒に来て机の上にカバンおいて先生から手元が見えないようにしてスマホで LINE やゲームに精を出し、限られた生命の時間を湯水のように無駄遣いするのでもかまいません。ただ、ふとした瞬間にゼミでやったことのほんの一部を一瞬でも思い出したなら、それにこだわってください。人間なる存在が生きているという事実がもつさざまな凄さ・切なさ・怖さ・素晴らしさに自然と意識が向かっていくその一瞬を、しっかりとらえられる学生になつてもらいたら、とてもうれしくおもいます。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

##### その他

授業中の学生のワークおよび 400 字文章課題に関して、適宜、講評を加える。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	越智 敏夫						

#### ゼミテーマ・タイトル

「現代の社会問題と私たち」(前期・後期同一テーマ)

#### 内容

国際研究ゼミナール 1・2 は基礎ゼミナールの延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。

今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識をはざれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。

たとえば現在、世の中で多くの人が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくとも、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していくきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしそのすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていくはずです。その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。

こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためにはなっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きると、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

田中克彦 『ことばと国家』 岩波新書

鶴見俊輔 『戦時期日本の精神史』 岩波書店

小倉千加子 『セックス神話解体新書』 ちくま文庫

フロム 『自由からの逃走』 東京創元社

杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書

以上を候補としていますが、初回に参加者と相談して決定します。

#### ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

#### 成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

#### ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そのところをよくよく考えてください。勉強したい人、議論したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	小山田 紀子						

#### ゼミテーマ・タイトル

フランス現代社会と日本社会の比較研究について考える。

#### 内容

2018年から2019年にかけて担当者（小山田）は、海外研修として南フランスのエクス・アン・プロヴァンスに滞在した。この地は、フランスの植民地研究のメッカとして、国立海外文書館やいくつかの研究機関がある、小さな大学都市である。おりしもフランスは、黄色いベスト運動が繰り広げられていたし、私の専門とするアルジェリアは大統領選挙をめぐる市民運動が展開されていた時であった。

この授業では、フランスという国の歴史と現在を、特に2000年代以降の動き—2005年の移民暴動・2015年のテロ事件・2018~19年の黄色いベスト運動などーに注目してみていく。このフランスの事例を踏まえた上で、次に日本の戦後史をたどることによって日本という国の在り方を学び、近年の日本の外国人労働者の実態や移民政策について考える。とくにヨーロッパ（フランス）の移民施問題と日本の今後の少子高齢化時代の外国人の受け入れと共生社会の在り方について考えていきたい。

#### 使用予定テキスト

尾上修吾『「社会分裂」に向かうフランス』明石書店、2018年11月

尾上修吾『「黄色いベスト」と底辺からの社会運動』明石書店、2019年12月

山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店、2008年。

パトリック・フォール・ジャン・フィリップ著、小林修訳『ジダンー 物静かな男の肖像』阪急コミュニケーションズ、2010年

鹿島茂ほか編『シャルリ・エブド事件を考える』白水社、2015年

高谷幸編著『移民政策とは何か：日本の現実から考える』人文書院、2019年4月

毛受敏浩『限界国家—人口減少で日本が迫られる最終選択—』朝日新書、2017年6月

依光正哲編著『日本の移民政策を考える—人口減少社会の課題—』明石書店、2005年

桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年

店田廣文『日本のモスク』山川出版社、2015年

以上の中から選ぶ。

#### ゼミの進め方

第1回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当個所のレジュメを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出してもらう。

#### 成績評価基準

ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。

#### ゼミ選択上のアドバイス

今世界で何が起こっているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあって、私たちは世界各地で起こっていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	佐々木 寛						

#### ゼミテーマ・タイトル

映画で観る——<現代>とはいがなる時代か

#### 内容

1年生の基礎演習にひきつづき、専門的な勉強に入る前の知的な柔軟体操を行います。どんなに専門的な勉強を積んでも、社会科学の「センス」のない人は努力が空回りしてしまいます。当ゼミでは、身の回りのできごとや日常の生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような真の意味での社会科学的な想像力を、それぞれが自分なりに獲得することを目指します。大学で学んだ個々の知識の断片は卒業すれば忘れてしまうかもしれません。でも、物事の本質的な側面を切り取る思考の技術（アート）は、どんな道に進もうとも古びたりしません。

ただ、2年生のゼミですから、基礎演習よりさらに進んで、<現代>とはいがなる時代か、自分たちは今どういう時代に生きているのかという、<歴史的な自己認識>との出会いを目指したいと思います。それゆえゼミでは、<現代>という時代を読み解くための視点や方法を獲得するために知的に面白いと思われるテキストなら何であれ、分野を越えて縦横無尽に読んでいこうと思います。とくにできるだけ多くの映画を観る中で、このテーマを追求しようと思います。

また、当ゼミでは、可能であれば合宿研修を予定しています。これは国内国外、どちらもアリです。参加者が話し合って、行き先も決めます。たとえば<オキナワ>という土地は、日本の近代や平和の問題を考える上でとても重要な土地です。新潟との共通点も少なくありません。<オキナワ>の歴史や風土を身体で感じることによって、かならずや、それぞれの参加者が自分なりの問題意識をもつようになると思います。

頭でっかちではなく、ワークショップなどを通じ、感性や身体で世界の問題を捉え、思考できるようになることも、このゼミの目標です。「この際おもいっきり勉強してみたい！」と思う人向きのゼミナールだと思います。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

基本的に、日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』(法律文化社)を購入していただきます。映画以外のテキストはこの中で紹介されている書籍から選びます。以下は、これまで取り上げた映画作品・テキストの一例です。

- ・D. リーン『アラビアのロレンス』(映画)
- ・D. リーン『ドクトル・ジハゴ』(映画)
- ・S. キューブリック『博士の異常な愛情』(映画)
- ・F. トリュフォー『華氏451度』(映画)
- ・E. クストリッツア『アンダーグラウンド』(映画)
- ・A. ニコル『ガタカ』(映画)
- ・P. ワーナー『ノーマンズランド』(映画)
- ・E. ホブズボーム『20世紀の歴史』三省堂
- ・オルテガ『大衆の反逆』ちくま学芸文庫
- ・E. H. カー『危機の20年』岩波文庫
- ・H. アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫
- ・丸山真男「現代における人間と政治」
- ・栗原彬「いじめの政治学」
- ・佐々木寛「グローバルな『全体主義』と新しい戦争」
- ・大田昌秀『沖縄—戦争と平和』朝日文庫

#### ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同でじっくり味わっていきます。「内容」のところでも述べたように、ゼミ合宿も予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

#### 成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

#### ゼミ選択上のアドバイス

いままでの経験から、「学生はおのれにふさわしいゼミしかもてない」と思います。能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽ししくつくっていこうとする気概をもった学生を歓迎します。価値あるものには苦労をいとわない学生を歓迎します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	澤口 晋一						

#### ゼミテーマ・タイトル

新潟の地理を題材に、調べ、分析・整理し、プレゼンする力を養う。

#### 内容

ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生は（昔からそうだったのかもしれないが）「自分で調べる力が圧倒的に弱い（あるいはその気力がない）、ということです。テキストを講読しても書かれてある文章を短くして言うだけで、それはどういうこと？と問うとほとんど何も答えられない、つまりわかっていないのである。説明するということがどういうことか理解できていないのである。これでは講読（発表） 자체が無意味である。

このゼミでは、新潟に関する地理的事象を 1000 字ほどで記述した簡略な文章の中からより深く調べられる記述を複数選定してもらい、それをできる限り詳しく調べなおして、発表するというものです。そのために時間をかけて色々な資料を探しだしてもらいます。その資料を内容に応じて加工し、資料にものを言わせる形で整理しまとめてもらいます。発表までに私との個々のやり取りを最低でも 3 回行い、内容をより深く充実したものとしていきます。このような過程を通じて、資料の扱い方とプレゼンの方法を学んでもらいます。発表までの準備期間は最低でも 3 週間かけてもらいます。付け焼刃で準備したものは報告させません。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

鈴木郁夫・中田 勝・田中和徳『新潟ものしり地理ブックⅡ』新潟日報事業社 2013 年。

#### ゼミの進め方

1 回のゼミで 2 人発表。発表には必ずパワーポイントを使用します。

#### 成績評価基準

取り組み姿勢、発表内容、レポートにより評価。

#### ゼミ選択上のアドバイス

地理的な事項に興味・関心のある人が望ましいが、それ以外でも調べる力を身に着け、パワポで発表するというスキルを身に着けたい人。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

#### その他

上述したように、発表は全員パワーポイントを使用します。今は、企業でも官公庁でも会議等での報告はほぼパワーポイントを使用します。効果的でわかりやすいパワーポイントの作成技術が誰にでも求められています。パワポを否定的にとらえる教員もまだいますが、それは時代錯誤といつていいでしょう。パワポの発明と浸透によって、少なくとも理系・情報系の分野のプレゼンは革命的に変わったといって過言ではありません。このゼミでは、どうやって効果的なパワポ画面を作成し、それをどう使いながらプレゼンするのか、といったことも、個々人に丁寧に指導します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	山田 裕史						

#### ゼミテーマ・タイトル

#### 市民による国際協力の実践

#### 内容

国際協力について学ぶゼミです。

国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。また、グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとりは、日常生活のなかでどのように国際協力を実践できるのでしょうか。このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、これらの問い合わせについて考え、議論します。

今年度は、とくに「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」について基礎から学びます。SDGsとは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとするものです。SDGsは、よりよい未来を目指すための世界共通の17の目標で構成されています。このゼミでは、単にSDGsについての知識を身に付けるだけでなく、実際に一人ひとりが自分にできること、できそうなことからSDGsに取り組むことを目指します。

また、このゼミでは、3年次以降の卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法をしっかりと身に付けます。具体的には、研究テーマの決め方、図書館での文献・資料など情報の探し方、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方などを学びます。学期末には、各自テーマを決め、ゼミ発表とレポート執筆を行います。このゼミでしっかりと学べば、卒業論文の書き方がわからない、というようなことにはならないはずです。

なお、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

今年度は最初に以下の書籍の一部を読み、その後は履修者の関心を聞きながら相談して決めます。

バウンド『60分でわかる！SDGs超入門』技術評論社、2019年

西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店、2017年

国際協力の具体的なテーマについて把握するには、以下の書籍に目を通しておくことを勧めます。

一般社団法人 Think the Earth『未来を変える目標：SDGs アイディアブック』紀伊國屋書店、2018年

内海成治編『新版 国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2016年

#### ゼミの進め方

このゼミでは、ほぼ毎回、3~4人の少人数のグループにわかれ、アクティブ・ラーニング型の授業を行います。つまり、いつも一緒にいる友達以外とも、たくさん会話や対話をすることになります。コミュニケーションが苦手という人もいると思いますが、社会に出たら、いつも気の合う人とだけ一緒にいることはできません。このゼミは、コミュニケーション能力を高めるというトレーニングも兼ねています。最初は緊張すると思いますが、心配はいりません。一人ひとりが安心して参加できるような雰囲気をつくっていきます。

#### 成績評価基準

(1) 出席、(2) グループ・ワークやグループ・ディスカッションへの貢献度、(3) ゼミ発表、(4) 期末レポート、をもとに総合的に評価します。

グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

#### ゼミ選択上のアドバイス

「国際協力論」の授業を履修済であるか、または本ゼミとあわせて履修することを勧めます。

ゼミで国際協力について学ぶだけでなく、それを実践したいという、意欲ある人たちの履修を歓迎します。本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組むTFT NUISや、フェアトレード推進団体 NUIS-FTなどの国際協力団体があり、各学年の山田ゼミの学生たちが国際協力を実践しています。また、学外でも、毎年5月の万代アースフェスタに出展したり、新潟の国際協力NGOが一堂に会する、秋の国際協力イベントの企画や運営も行ったりしています。ぜひ一緒に活動しましょう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	国際協力NGOでプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。	○
その他		

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	堀川 祐里						

#### ゼミテーマ・タイトル

##### 「働く」ことから日本経済を考える

##### 内容

皆さんに質問です。皆さんは将来、「働く」予定ですか？「働くかない」予定ですか？

おそらくは多くの人が、大学を卒業したら、ある程度の期間は「働く」だろうと予想しているのではないかと思います。それでは、その皆さんは一体、なぜ「働く」のですか？大学で身につけた知識や能力を活かしてみたいと思うからでしょうか？子どもの頃からあこがれている職業があるからでしょうか？新潟県のため、日本社会のために貢献したいからでしょうか？<男だから>あるいは<女だから>働くのでしょうか？

さらに、もう少し考えてみると、「働く」のは家の<中>ですか？<外>ですか？「働く」と言っても、会社やお店でお金を稼ぐことだけが「働く」ではないですね。皆さんはどこで「働く」ことをイメージしているでしょうか？

そして、もし「働けない」時、皆さんはどうやって生活していったら良いと思いますか？

このゼミは「働く」ことを通して日本経済について考えるゼミです。まず、皆さんには「働く」ことについて学び、「働く」ことについての自分自身の考えを持ってもらいたいと思います。経済学や日本経済論は、“とっつきにくい” “面白くない” “退屈な” “数字ばかりの” 勉強に感じている人もいるかもしれません。しかしながら、実は皆さんの現在の生活、そして将来の生活にとても身近なものなのです。中でも「働く」ことはこの国で生活する多くの人の人生のうちに、必ず1度はやってきます。このゼミでは、その「働く」を学んでいきましょう。アルバイトをしている皆さん、おうちでは家事をお手伝い・担当している皆さん、そして将来社会人として「働く」ことを見据えて学んでいる最中の皆さんと、「働く」とは何か、一緒に考えていきたいと思います。

そのうえで、日本経済を「働く」ことという地点に立って眺めてみたいと思います。日本経済の理解というと、なんだか大それたことに感じるかもしれませんが、「働く」を通して、日本経済を理解していきたいと思います。

そして、このゼミでは「働く」を題材とした文献の輪読や発表から、大学での学びの基礎である、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、グループでのディスカッション（議論）の仕方、みんなの前の発表の仕方、また連絡手段としてメールの使い方などを身に付けてほしいと思います。

なお、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

##### 使用予定テキスト

以下の書籍の中から、教員が1冊選定します。新学期の教科書販売で、自分の分の書籍を各自購入してもらいますので、心づもりをしておいてください。

森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書。

森岡孝二（2013）『過労死は何を告発しているか 現代日本の企業と労働』岩波現代文庫。

高橋祐吉・鷺谷徹・赤堀正成・兵頭淳史（2016）『図説 労働の論点』旬報社。

今野晴貴・嶋崎量（2018）『裁量労働制はなぜ危険か 「働き方改革」の闇』岩波書店。

久原穂（2018）『「働き方改革」の嘘 誰が得をして、誰が苦しむのか』集英社新書。

筒井淳也（2015）『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書。

労働政策研究・研修機構（2018）『非典型化する家族と女性のキャリア』労働政策研究・研修機構。

岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。

唐鑑直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。

阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。

岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣。

また、大学での学び方を知るための参考文献として、近田政博（2013）『学びのティップス』玉川大学出版部。

##### ゼミの進め方

主に輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からぬことについて調べ、疑問や考えを議論すること）を行います。また、大学での学び方を身につけるため、文章の作成や、発表の練習も適宜行なっていきます。

##### 成績評価基準

履修者本人が担当する輪読の発表や、レポート作成についての、取り組みの姿勢や内容（50%）

授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%）

※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。

##### ゼミ選択上のアドバイス

大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。とくにゼミナールでは、教員が一方的に講義を行う授業とは異なり、履修者の取り組みが、ゼミの運営に大きく影響します。ゼミの主役はゼミ生の皆さんであり、ゼミは皆さんのが自分の意見や疑問を皆と話す場です。履修者の皆さんの個性が、ゼミの色を作っていくといつても過言ではありません。このゼミでは、誰かと協力して勉強することを楽しみたいと思っている皆さんのが、ゼミの運営を期待します。大事なことは、何事に対しても「なぜ？」をたくさん考え、そして、とにかく恥ずかしがらずにいっぱいしゃべることです。

堀川の専門分野は、経済学（特に労働問題、社会保障・社会福祉、日本経済史）、ジェンダー、セクシュアリティに関するものです。4年生での卒業論文作成に当たり、これらの学問に興味を持っている人を歓迎します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

##### その他

ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い合わせ、もしくは答えが1つではない問い合わせたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。4年間の中で、そのような難問に1つでも多くぶち当たってください。

本ゼミでは、輪読の仕方や、発表の仕方など、大学での学びの基礎はゆっくりとじっくりと履修生みんなで学んでいきますので、履修前の段階で分からぬことがあるかもしれません。ただし、"チャレンジ"が好きな人、"チャレンジ"に躊躇しない人の履修を期待します。また、今まであんまり人と話したり、議論したりするのは得意ではなかったという人でも、「話してみたい」「議論してみたい」という意思があれば、是非履修してみてください。「自分も○○してみたい！」の気持ちをもつ人を歓迎します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310003	X-21-B-2-310003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際研究ゼミナール 1	瀬戸 裕之						

#### ゼミテーマ・タイトル

東南アジアについて学ぼう－地域形成と日本とのつながり－

#### 内容

##### 【ゼミの目的】

本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。

東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、ASEAN 共同体など国境を越えた経済協力が進みつつあり、今後の展開が注目されています。

一方で、東南アジアの多くの国が、かつて植民地として外国に支配された経験があり、1990 年代になるまで冷戦下で激しい戦争を経験した紛争地域でした。さらに、冷戦後に経済発展が進みつつも、民主化や人権の保障には、まだ多くの課題を抱えています。

今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにどのようにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみることが重要であると考えます。

本ゼミでは、東南アジアに関する本（新書）と一緒に読みながら、東南アジアに対する理解を深めたいと考えています。

##### 【ゼミの予定】

岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）を読みます。学生の間で担当を決めて、担当する部分についてレジュメを作成して発表してもらいます。その後に、学生の間で質疑応答を行います。東南アジアに関する基礎知識を身につけるとともに、ゼミ報告の方法についても学びます。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その結果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社、2017 年。

※受講者に、必ず購入してもらいます。

#### ゼミの進め方

学生が本の担当部分についてレジュメを作成し、ゼミで報告します。それに基づいて、学生の間で質疑応答を行います。必要に応じて、教員が情報を補足します。

#### 成績評価基準

学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席・授業態度 (25%)、(2) 担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢 (50%)、(3) ゼミでの発言やディスカッションへの参加 (25%)、に基づいて評価します。

【注意事項】ゼミ 15 回のうち 1 回分は、レポートで代替します。受講者は、必ず提出してください。

#### ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミの受講者は、毎年前期に開講される「現代東南アジア論」を受講することをお勧めします。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習